

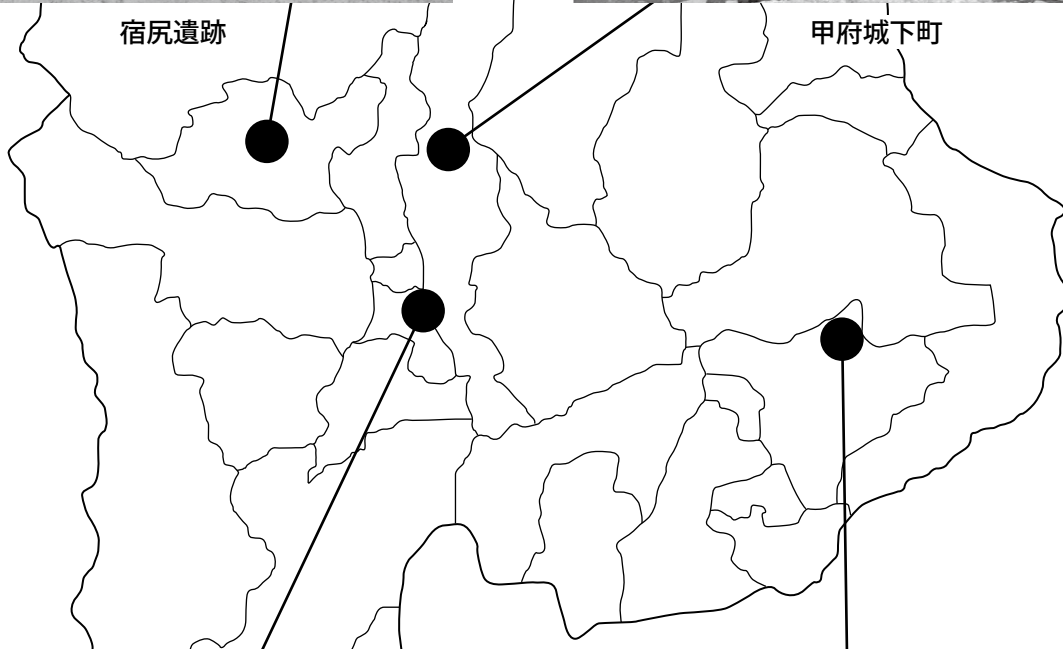
# 2021(令和3)年度 第2回 遺跡調査発表会 要旨



宿尻遺跡



甲府城下町



二又第1遺跡



美通遺跡

日時 令和4年3月12日(土)  
会場 風土記の丘研修センター

主催 山梨県埋蔵文化財センター  
共催 山梨県考古学協会

# しゅく じり い せき 宿 尻 遺 跡

蕪崎市教育委員会 半澤 直史

- 1 所在地 蕪崎市穴山町字宿尻地内
- 2 調査主体 蕪崎市教育委員会
- 3 調査期間 令和3年4月21日～7月30日
- 4 調査面積 331㎡
- 5 調査原因 個人住宅
- 6 調査担当者 半澤直史・関間俊明
- 7 調査の概要

宿尻遺跡は山梨県蕪崎市穴山町字宿尻に所在します。遺跡は、蕪崎市を流れる釜無川と塩川に挟まれた七里岩台地と呼ばれる八ヶ岳泥流上の標高約540mのところであり、南には能見城山、北には兜山とそれぞれ小高い山の間位置し、西側に向かって緩やかに傾斜をして、周辺は沢地形に囲まれています。

本遺跡は、これまでに何度か発掘調査が行われており、主な調査として1993年の山梨県（当時の山梨県教育委員会）による県道穴山停車場線拡幅工事に伴う調査、2002年の蕪崎市教育委員会によるデイサービスセンター建設に伴う調査、2016年の市道（穴山）22号線道路改良工事に伴う調査等があります。

本調査は、2016年の調査地点より約160m北に位置しています。調査の結果、縄文時代と古墳時代以降の2時期の遺構が確認されました。

古墳時代以降では、おおむね南北方向に延びる幅3m、深さ40cmの溝状遺構が検出されました。現段階でこの遺構の時期を示す遺物等は、確認出来ていませんが、堆積土の特徴から古墳時代から平安時代の可能性があります。

縄文時代では、調査区全体から、ピット・土坑といった遺構が多数検出されました。また市内では初見となる落とし穴跡を検出しました。いずれも中期中葉から後葉のものとなります。

検出したピット・土坑等は現在整理作業中ですが、

その内、特徴的なものをあげてみます。A1-SD7号土坑では、鉢形に再加工したかのような土器が、底部の算盤玉状の部分のみの状態で出土しました。

B2-SD1号土坑では、浅鉢や小型のほぼ完形の土器等が出土しました。この土坑は、形状がフラスコのような袋状になっています。また底の周囲に溝が廻らされて、一部溝が掘られていないところは、他の床よりもやや高く盛られている状態でした。性格としては、食料等を備蓄する貯蔵穴であったと考えられます。

B1-IB1号土坑では土器の出土状況を調査したところ、初めに出土した土器とそれを取り上げた後に出土した土器の上下が反対の向きになっており、土坑に土器を埋める時の縄文人の仕草が垣間見える出土状況といえます。

本調査の中でも興味深い発見だったのが、落とし穴跡の検出です。落とし穴の底面には逆茂木を設置したと推定される5基のピットが、サイコロの5のように配置されていました。

落とし穴の深さは、約2m程で、堆積土は大きく2つに分けることができ、上層は曽利式の後半のものが多数出土しました。下層はロームブロックを多く含み、しまりがややあり、下層の上面では底面の逆茂木のピットに対応する状態でその痕跡を確認することが出来ました。本調査区内では、住居跡が検出されず、貯蔵穴のような土坑が見つかったことから、それらを保護するためなど、他にも色々想定できるので検討中です。

以上のように本調査では、縄文時代中期の時期を中心とした調査成果となりました。これまでの宿尻遺跡とは違い、住居跡と思われる遺構は確認出来ず、ピットや土坑といった遺構がほとんどでした。また希少な落とし穴跡が、興味深い調査であったといえます。



調査区全景（西側）



A 1 - SD 7 土器出土状況



B 1 - I B 1 土器出土状況



B 2 - SD 1 土器出土状況



C 3 - SD 1（落とし穴跡）完掘状況



# 美 通 遺 跡

山梨県埋蔵文化財センター 久保田 健太郎

- 1 所在地 都留市井倉地内
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和3年6月1日～9月30日
- 4 調査面積 約2,000㎡
- 5 調査原因 一級河川朝日川改修工事
- 6 調査担当者 久保田健太郎・佐藤孝志
- 7 調査概要

## (1) 遺跡の位置

美通遺跡は、朝日川と菅野川、そして桂川の合流点付近に立地しています。周囲を山に囲まれるも、朝日川沿いの比較的広い平坦な土地の上にあるのが特徴です。かつて、都留バイパスの建設工事に伴って複数年にわたり発掘調査を実施したことがあり、新設する道路範囲の約650mという広い範囲が、遺跡であることが判明しました。発見された遺構（建物の跡など）や遺物（土器や石器などの道具類）の時代も、縄文時代から中世にかけてと幅広く、当該地域の主要な生活の舞台であったことが窺えます。

## (2) 調査地点の地史

遺跡の地層からは、過去から現在までの地形の成り立ちに関するデータも得られました。地層を構成するのは川が運んできた砂や、富士山からの火山灰が風化したもの（ローム）と砂が混ざったもの、やはり富士山給源のスコリアという火山砕石物、そして腐植土です。特に深いところでは厚い砂の層や砂混じりのローム層が何層にも積み重なっている様子がみられました。各砂混じりのローム層の間には腐食して土壤が形成した跡がみられ、そこから遺物が発見される地点もありました。浅いところでは土壤化が著しく、地層によってはその中に多量のスコリアが含まれるものもありました。

朝日川沿いの南北に長く展開する今回の調査範囲では、どの地層も、川に向けて傾斜する特徴がみられました。その中で、右の図の破線で示した範囲ないでは、

谷状の地形がみられました。先にみた富士山給源の堆積物が多い点や、この谷状地形は、遺跡の形成過程にかかわりが深いと考えられますが、そのことは(4)にまとめます。

## (3) 発見された遺構

縄文時代 浅い土坑（穴）の中に熱した拳大ほどの石を詰めて調理した跡と考えられる集石が3か所と、「集石が集積」し、おびただしい数の石があたり一面に広がっていた集石群1か所が発見された。集積群には作業台とも思える大形の石が点々と置かれていました。石の種類は隣接する朝日川で採取可能なものですが、被熱すると崩壊しやすい花崗岩は使われず、礫岩や玄武岩、溶岩などを選んで使用していた傾向が読み取れそうで、現在分析中です。また、縄文時代のどの時期に帰属するかについても、検討をしているところです。

弥生時代 直径約1mの土坑の中から、弥生時代前期の壺が出土しました。下側半分が欠損していましたが、1個体分です。

その他の土坑 直径約1mの土坑はほかにも発見されています。掘りこまれている地層などから平安時代のもので推測しています。また中世の所産と感ぜられる横長の土坑も多数発見しました。後者には南北方向を向くものと、東西方向を向くものの2グループがあります。

## (4) 以降の分布傾向と遺跡形成

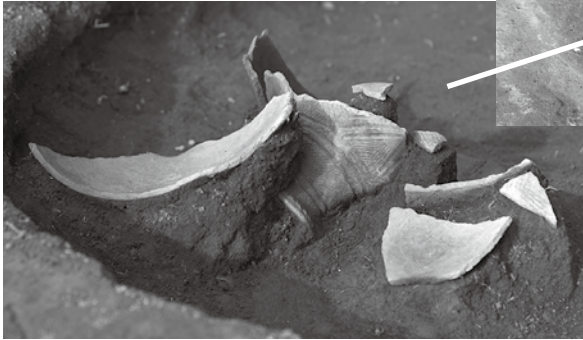
縄文時代や弥生時代の遺構は、調査範囲中央の谷状地形を避けて、北側と南側の各エリアに分布する傾向がみられます。一方、平安時代や中世の所産と考えられる土坑は、調査範囲全体から発見されました。これは、平安時代や中世段階では縄文時代やその後の富士山給源の堆積物によって谷が埋没し、谷状地形が遺跡形成に影響しなくなっていたことをうかがわせる傾向といえます。



1: 集石群 (縄文時代)



2: 集石 (縄文時代)



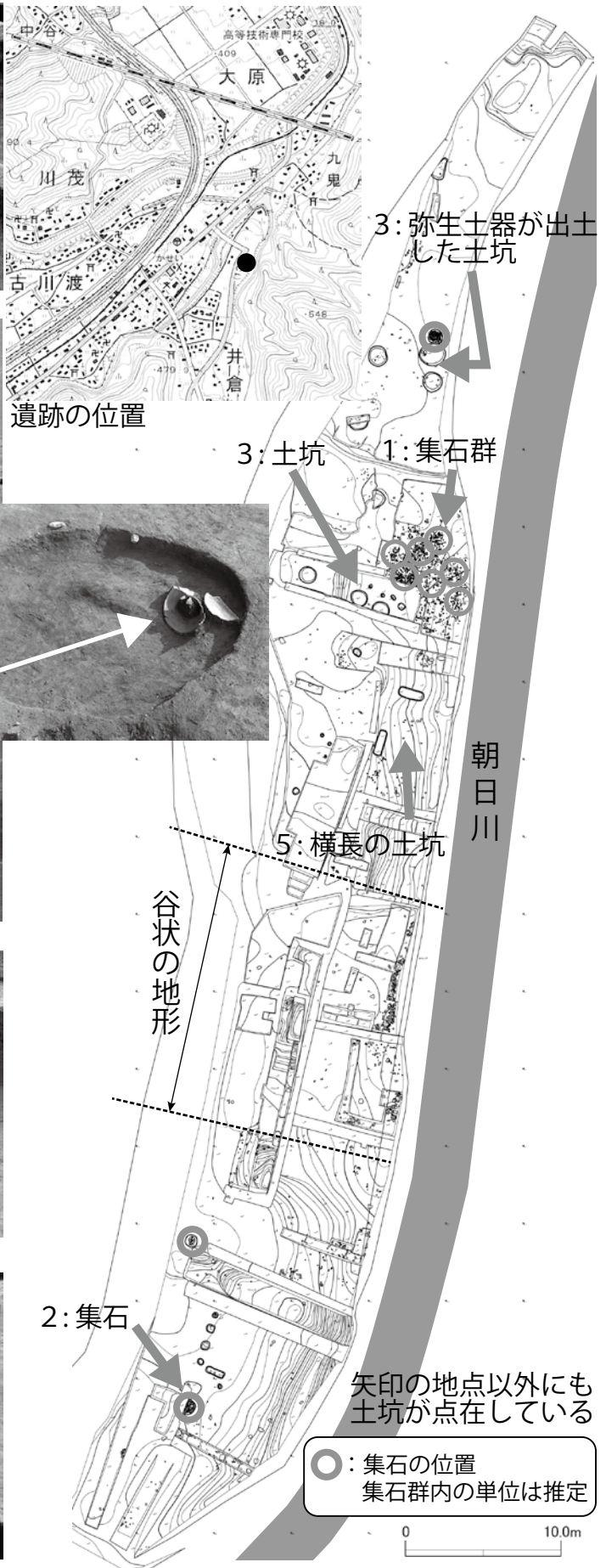
3: 土坑出土の弥生土器 (弥生時代前期)



4: 直径約1mの土坑 (平安時代か)



5: 横長の土坑 (中世か)



美通遺跡 2021 年度調査で発見された主な遺構



# ふた また だい いち い せき 二又第1遺跡

山梨県埋蔵文化財センター 桐部 夏帆

- 1 所在地 山梨県中央市成島地内
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和3年1月22日～6月30日
- 4 調査面積 約3000㎡
- 5 調査原因 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事のため
- 6 調査担当者 御山亮済・小高鉄平・内田祥一・桐部夏帆

## 7 調査概要

二又第1遺跡は中央市（旧玉穂町）の成島地区に所在しています。釜無川の伏流水を水源とする神明川の右岸にあたり、周囲には田園風景が広がっています。この地域は釜無川と笛吹川の扇状地であり、河川の繰り返し氾濫により、厚い砂礫層でおおわれていると考えられています。

「成島」という地名は甲府の一蓮寺文書に確認することができます。一蓮寺の寺領として「成島・乙黒堰」が記載されており、成島と隣村の中楯の一部も一蓮寺の寺領であるとされています。古文書の検討からは、成島の集落の形成は、少なくとも15世紀前半まで遡るだろうと言われています。

## 調査の結果

今回の発掘調査では柱穴300基以上、土坑200基以上、石組井戸1基、墓11基などが見つかりました。

## 溝により分けられた区画

溝SD16は、今回確認された溝の中でも一番大きく、調査区の中央部を南北に縦断しています。

この溝の中から完形に近い漆器椀や茶釜、香炉といったものが出土しています。またSD16南側からは、少なくとも15枚以上のかわらけが積み重なった状態で見つかっています。

墓や井戸の位置は、溝を境界にして東に偏って位置しています。それぞれの溝が、生活の場を区画する溝

の可能性がります。

## 生活に使われた井戸

調査区の南東部に石組みの井戸が発見されました。また、廃棄時には石を投げ入れて埋められていました。井戸の底には、貯水を目的とした桶が一緒に見つかりました。井戸側の石組み部分は土留めとしての役割を果たしています。

## 重なって埋葬された人々

墓は全部で11基発見されています。人骨は、頭を北に向けた横向きで、手足を曲げた屈葬の状態で見つかりました。頭部のみが遺存したのものもありますが、元々体がなかったかは不明です。全11基のうち4基は木枠で囲まれていました。木櫛やかわらけが副葬されているものもあり、うち3基には六文銭が入っていました。

## 遺跡の特徴

中世のかわらけやすり鉢などが多く出土しました。内耳土器や漆器椀、箸といった日常的に使うものが多く出土しており、生活の痕跡をうかがうことができます。

また、香炉や茶釜のような使用が限定的なものも出土しています。遺跡内の石列に五輪塔の部材が転用されていることや、墓が集中していることから寺院跡である可能性を検討中です。

本遺跡は、かわらけの年代観より15～16世紀頃の遺跡であると推測することができます。

## まとめ

本遺跡は、地表から50cmの部分から見つかり、遺構面より上層に砂礫層の堆積はありませんでした。このことから当時からの地域が、他と比べて比較的高い自然堤防上に位置していたことをうかがうことができます。

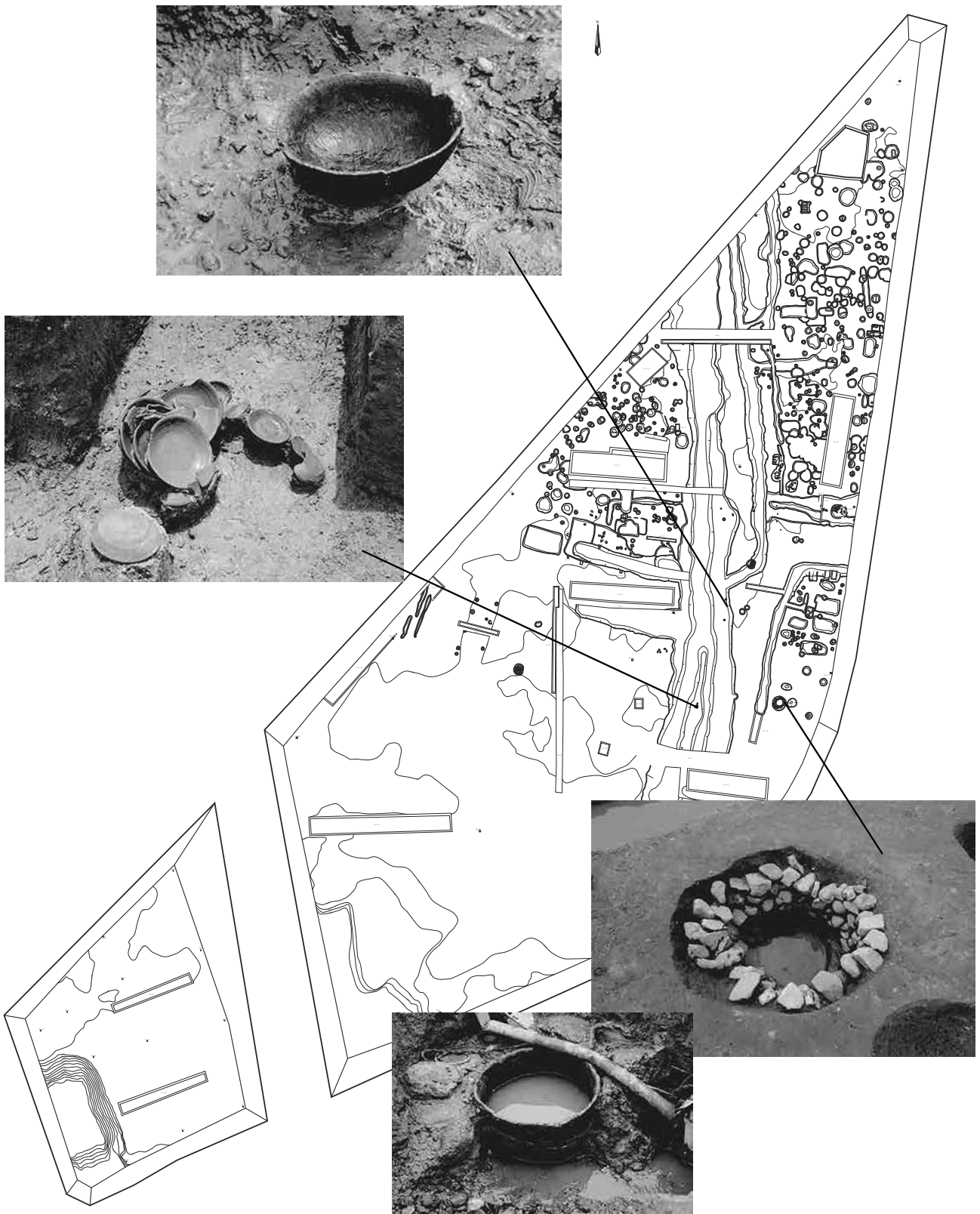


图1 二又第1遺跡調査全体図

# こう ぶ じょう か まち い せ き 甲府城下町遺跡

## (中央5丁目地点)

昭和測量株式会社 萩野谷 主税

- 1 所在地 甲府市中央5丁目地内
- 2 調査主体 甲府市教育委員会・昭和測量(株)
- 3 調査期間 1区：令和元年12月3日～令和2年3月27日／2区：令和2年7月29日～令和2年12月26日／3区：令和2年10月7日～令和3年2月27日／4区：令和2年11月26日～令和3年2月27日／5区：令和3年7月21日～令和3年10月29日
- 4 調査面積 1区：722㎡／2区：767㎡／3区：748㎡／4区：244㎡／5区：560㎡
- 5 調査原因 都市計画道路和戸町竜王線建設のため
- 6 調査担当者 甲府市教育委員会 志村憲一、昭和測量(株) 1区：泉英樹・浅川晃一／2区：萩野谷主税・浅川晃一／3区：泉英樹／4区：萩野谷主税・浅川晃一／5区：小谷亮二・高野高潔・望月健太・浅川晃一・藤巻浩太郎

### 7 調査の概要 調査地点の概要

甲府城下町遺跡は、甲府盆地北縁部の相川扇状地の扇端部に位置する近世城下町です。城下町の調査は道路整備事業や住宅地建設などを要因として、断続的に実施されています。

本調査地点は甲府城二の堀と三の堀に囲まれた町人地の南東部に位置し、東西方向に延びる道沿いに建設された下連雀町にあたります(図1)。

#### 1区の調査成果

上水遺構・廃棄土坑などが検出されています。上水遺構(図2)は、近世に敷設されたものと、近代に敷設されたものが検出されています。近世に敷設されたものは、竹管と木製の継手が接続した状態で出土し、この継手の年代測定の結果、上水の敷設は17世紀後半にさかのぼる可能性がみとめられます。

廃棄土坑では、マグロ属や解体痕のあるイノシシ・ニホンジカの骨がまとまって出土した土坑の他、ニホン

ザルの骨が出土した土坑もありました。

#### 2～4区の調査成果

大型土坑、建物の礎石、地鎮具などが検出されています。

大型土坑は、平面形が不整形な形状のものと方形のものがみられます。不整形な形状のものには、火災で生じたゴミを処分したとみられるものが多く。廃棄土坑として掘られた土坑であると推定されます。一方、方形のものは、商家の間口付近に構築された穴蔵と推定されるものや、大型の建造物の基礎と推定される遺構があります。前者には、井桁状に組まれた木材が検出され、穴蔵の床板を敷くための根太と推定されます(図3)。後者では、遺構の底面で礎石や礎板を据えた土坑が検出されています(図4)。この土坑から出土した礎板について年代測定を行ったところ、16世紀後半から17世紀前半にさかのぼる可能性があるという結果が得られました。当該期に何らかの建造物が建っていた可能性が示唆されます。

地鎮具は、陶器の灯明皿3枚と灯明受皿2枚がT字状に伏せて置かれた状態で出土しました。これらの中には小石・粘土塊・火打ち石・水晶が埋納されています。建物を建てる際に行われた地鎮祭に伴い埋納されたものと推定されます。地鎮具の付近で、明治18年の半銭硬貨が出土したことから、明治時代に埋納されたものであると推定されます。またこの地鎮具は、建物の礎石が囲む方形区画内の内側から出土しており、建物との関連性がうかがえます。

#### 5区の調査成果

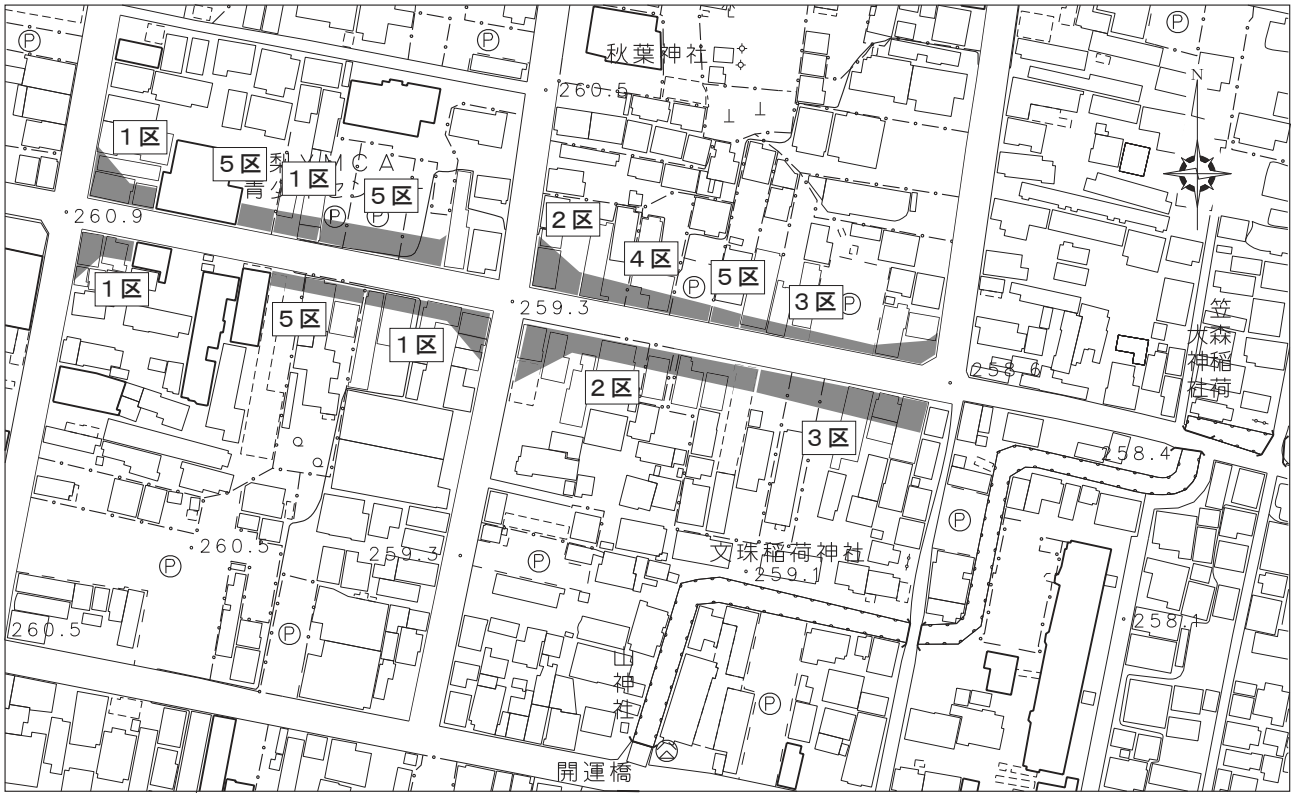
建物の礎石や地鎮具などが検出されています。地鎮具は2ヶ所検出され、いずれも建物の礎石周辺で土器の皿が5枚伏せられた状態で出土しています(図5)。土器の皿の下には水晶が埋納されています。

#### まとめ

今回の調査では、城下町形成期にさかのぼる遺構が検出されたことが大きな成果です。遺構の性格については不明な部分も多いですが、城下町形成期の町人地についての資料はいまだ少なく、当時の城下町の姿を考える上で、重要な手掛かりとなります。

また、近代の民間信仰の様相を伝える地鎮具も貴重な資料となります。





(1) 調査地点位置図



(2) 1区 上水遺構



(3) 4区 大型土坑



(4) 3区 大型土坑



(5) 5区 地鎮具出土状況

# 令和3年度の県内埋蔵文化財の調査と保護

山梨県観光文化部 文化振興・文化財課 埋蔵文化財担当

## 1 届出件数と内容（令和2年度分）

令和2年度の県への文化財保護法（以下、「法」という）にもとづく届出等の件数は、以下のとおりとなっています。令和元年度と比較して、届出総数は増加の傾向にあります。

＜試掘調査・発掘調査＞

民間主体（法92条）：5（8）件

行政主体（法99条）：289（252）件

＜遺跡内の土木工事等の届出＞

個人・民間（法93条）：770（751）件

公共団体（法94条）：89（94）件

＜遺跡の不時発見＞

個人・民間（法96条）：1（0）件

公共団体（法97条）：0（1）件

※（ ）内数字は令和元年度の数字。

近年の件数の推移（次頁グラフ）を見ると、土木工事等の届出件数は景気・社会情勢など（消費税増等）を要因として、増減を繰り返しておりますが、ほぼ横ばいの数字となっています。一方、発掘調査件数は、この数年で増加傾向にあります。

## 2 開発に伴う発掘調査（令和4年1月1日現在）

令和3年4月～12月に実施された県内の発掘調査の状況について概観します。大小様々な開発行為に伴って試掘調査が行われ、埋設保存ができない場合に限り、記録保存のための発掘調査が実施されています。大規模な事業としては、面積が広大な農業基盤整備事業に伴う発掘調査が、峡北地域を中心に行われています。リニア中央新幹線の建設工事に伴う発掘調査は2年目となり、数地点で調査が進められています。一方、民間開発では、個人住宅や宅地造成などの住宅関係の開発にかかる割合が依然高くなっています。

なお、周知の埋蔵文化財包蔵地外の試掘調査等により、新たに3つの遺跡が発見されています。

## 3 発掘調査の成果から

今年度県内で行われた発掘調査では、各地で成果が

あがっています。

リニア中央新幹線保守基地建設工事に伴う、二又第1遺跡・第2遺跡（中央市成島）の発掘調査では、中世の集落跡が発掘調査されており、人骨の残存する木棺墓等が見つかっています。隣接地点も今後調査予定であり、中世集落が広域で明らかになる可能性があります。リニア中央新幹線の本線工事では、この他に毘沙門遺跡（笛吹市境川町）や小井川遺跡（中央市布施）でも調査が進められています。

甲府市の甲府城下町遺跡では、県と甲府市、民間調査組織によってそれぞれ発掘調査が実施されています。特に、甲府城跡三の堀周辺の調査では、「船着き場」とみられる遺構が初めて確認され、話題となりました。

都留市の桃園遺跡では、縄文時代中期の集落跡の調査が行われました。山梨市では、ほ場整備事業に伴って、京塚遺跡・上野原遺跡の発掘調査が行われています。韮崎市では、宿尻遺跡や宮ノ前遺跡の本調査が実施されているほか、御座田遺跡では継続的な調査が行われています。北杜市では一道下遺跡の発掘調査が行われており、平安時代の集落が確認されています。南アルプス市では、新たに発見された野牛島・畑返遺跡の発掘調査が実施されています。

## 4 埋蔵文化財保護体制の整備

県内の市町村の状況として、発掘調査など埋蔵文化財保護行政を担当する専門職員は、全27市町村のうち14市町に配置されており、配置率は52%となっています。前年度より減少することとなりました。いわゆる団塊の世代の退職等によって、職員数は減少傾向にあります。一方で新規採用などもみられます。実務経験の少ない若手職員の育成が全国的にも課題となっています。

埋蔵文化財専門職員は、発掘調査によって埋蔵文化財の保護を図るだけでなく、これまでの調査成果などを活用し、地域アイデンティティの形成や地域活性化に貢献していくことが求められており、埋蔵文化財のみならず、文化財行政全般において保護・活用を担う



重要な人材として適切な職員配置が望まれます。

## 5 埋蔵文化財の保存と活用

### (1) 史跡・考古資料の指定

今年度は、県指定史跡として、甲府市「上の平遺跡の方形周溝墓群」が山梨県文化財保護審議会から知事宛に指定相当と答申されています。また、国指定史跡甲府城跡のうち愛宕山石切場跡の一部が、令和3年12月17日に追加指定されました。

### (2) 史跡の整備と発掘調査

本県には16件の国指定史跡、27件の県指定史跡があります。これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有化や計画の策定、保存を目的とした試掘調査など、保存・活用に関する取り組みが行われています。国指定史跡では、甲府城跡（県観光文化部）、武田氏館跡（甲府市）、梅之木遺跡（北杜市）、新府城跡（韮崎市）、御勅使川旧堤防（南アルプス市）、甲斐国分寺跡（笛吹市）などで、保存・活用、整備が進められています。

### (3) 展覧会・シンポジウム・研究会等

県内の博物館や研究活動は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることとなりました。

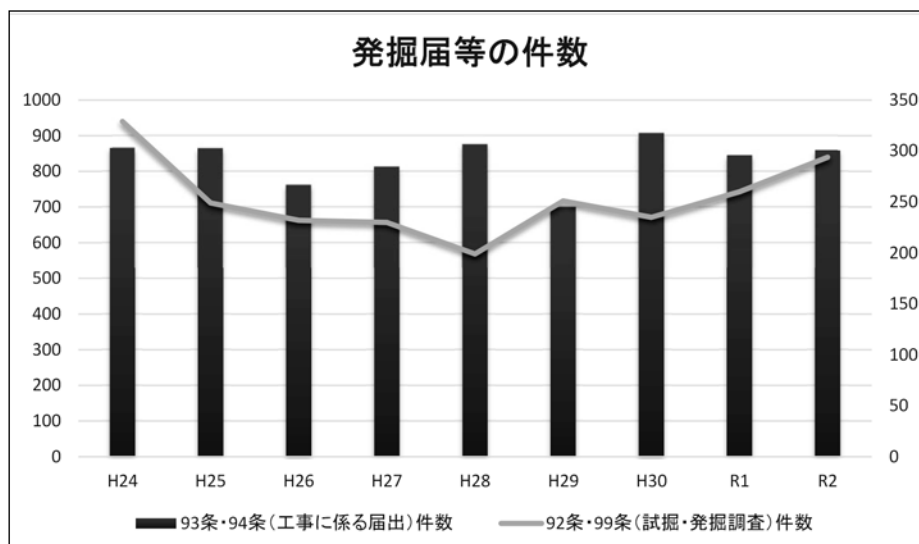
開催された展覧会として、県立考古博物館では、企画展「AR 古代望見—よみがえれ！甲斐風土記の丘—」、

「笛吹市の出土品Ⅱ—弥生・古墳の生活と祈り—」、特別展「甲府城のすべて—石垣と瓦の考古学—」が開催されました。また、企画展にあわせて風土記の丘ガイドアプリ「AR 古代望見」がリリースされました。デジタル技術を用いた史跡・考古資料の活用事例として注目されます。コロナ禍の影響も受けましたが、山梨県と静岡県との交流企画「バイ・ふじのくに文化財交流事業」として企画展「しずおかの弥生時代」も実施されました。

北杜市考古資料館では、長野県富士見町・原村と共同開催の企画展「山麓“火”story～火と生きた縄文人～」が開催されました。韮崎市民俗資料館では、企画展「最新の発掘から新府城を観る」が、釈迦堂遺跡博物館では企画展「みずけむり—山梨県の水煙文土器—」などが開催されました。また、甲府市教育委員会では、武田信玄生誕500年を記念して、武田氏館跡歴史館での特別展「遺産から語る武田信玄」や、多くの関連講演会・シンポジウムを実施しています。

山梨県考古学協会では、オンライン会議システムにより、研究集会「曾利式土器とその周辺」が開催されました。結果的に遠方からも多くの参加があり、オンライン開催の可能性が広がりました。

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」では「三十三番土偶札所巡り」が好評で、“縄文ブーム”の継続傾向が見てとれます。このほか、各市町村教育委員会や研究団体等において、史跡や埋蔵文化財の活用を図る様々な事業が行われました。



# 発掘調査最新情報

- ① 遺跡名      ② 所在地      ③ 遺跡の時代      ④ 調査期間      ⑤ 調査担当者  
⑥ 調査機関      ⑦ 調査面積      ⑧ 遺跡の概要      ⑨ 問い合わせ先

## 甲府市

①緑が丘二丁目遺跡(みどりがおかにちょうめいせき) ②甲府市緑が丘二丁目地内③古墳時代、奈良・平安時代④令和3年11月5日～令和3年12月14日⑤平塚洋一(甲府市教育委員会)、小谷亮二・藤巻浩太郎(昭和測量株式会社) ⑥甲府市教育委員会(調査支援:昭和測量株式会社) ⑦102㎡ ⑧調査地点の東には緑が丘一丁目遺跡、南には塩部遺跡といった拠点集落が分布する。堆積状況や土器の出土状況から自然流路(旧河道、土石流の痕跡)の可能性が考えられるが、出土した土器の中に祭祀に関わる器種もあることから周辺に祭祀に関わる遺跡の存在が想定される。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①甲府城下町遺跡(こうふじょうかまちいせき) ②甲府市中央5丁目地内③近世、近代④令和3年7月21日～令和3年10月29日⑤志村憲一(甲府市教育委員会)、小谷亮二・高野高潔・望月健太・浅川晃一・藤巻浩太郎(昭和測量株式会社) ⑥甲府市教育委員会(調査支援:昭和測量株式会社) ⑦560㎡⑧道路改良工事に伴う調査。調査地は江戸時代の下連雀町に位置している。調査の結果、近世の石積み、区画溝、礎石建物跡、地鎮遺構、利水施設などの遺構が検出された。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①甲府城下町遺跡(こうふじょうかまちいせき) ②甲府市中央2丁目地内③近世、近代④令和3年6月23日～7月20日⑤志村憲一(甲府市教育委員会)、望月健太・浅川晃一・藤巻浩太郎(昭和測量株式会社) ⑥甲府市教育委員会(調査支援:昭和測量株式会社) ⑦25㎡⑧道路改良工事に伴う調査。調査地は江戸時代の柳町一丁目に所在する。近世から近代の地境、上水遺構、廃棄土坑、礎石のほか、近世以前に遡ると推定される溝状の遺構が検出された。また、近世遺構面より、溶融物が内面に付着した土器・陶器が複数出土しており、一部には金粒の付着が認められた。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①甲府城下町遺跡(こうふじょうかまちいせき) ②甲府市中央4丁目地内③近世、近代④令和3年12月21日～令和4年3月28日⑤志村憲一、高野高潔・浅川晃一(昭和測量株式会社) ⑥甲府市教育委員会(調査支援:昭和測量株式会社) ⑦230.84㎡⑧道路改良工事に伴う調査。江戸時代、甲州道中の柳町宿に位置する。近世から近代にわたる数時期の火災層と、商家

の土間・礎石・上水道の遺構が検出された。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①甲府城下町遺跡(こうふじょうかまちいせき) ②甲府市中央4丁目347 ③近世、近代④令和3年5月24日～5月31日⑤望月健太・浅川晃一(昭和測量株式会社) ⑥昭和測量株式会社⑦8.125㎡⑧事務所建設に伴う調査。調査地は江戸時代の甲州街道に面する、柳町三丁目に所在する。近世の廃棄土坑・水路石列、近代の建物跡などの遺構が検出された。調査地点は、江戸時代の間屋場に近く、出土した札状木製品には墨書による屋号も認められた。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①天神北遺跡(てんじんきたいせき) ②甲府市千塚5丁目地内③縄文、古墳、平安④令和3年10月22日～12月20日⑤望月健太・浅川晃一(昭和測量株式会社) ⑥昭和測量株式会社⑦495㎡⑧宅地造成工事に伴う調査。遺跡は荒川中流域左岸の自然堤防状の微高地に所在し、地形は南東方向へ傾斜する。縄文時代中期の埋甕、古墳時代前期・中期の溝跡、平安時代前期の竪穴住居などの遺構が検出されたほか、旧河道が確認された。平安時代の遺構面は分厚い粗粒砂層下に埋没しており、河川の氾濫により廃絶したと推定される。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①塚越遺跡(つかこしいせき) ②甲府市国玉町地内③弥生時代④令和4年1月7日～令和4年1月28日⑤小谷亮二⑥昭和測量株式会社⑦120㎡⑧宅地造成工事に伴う調査。調査区東側で土坑、柱穴などを検出した。調査区の西側では南西方向へ落ちる地形の傾斜を検出したが遺構は希薄である。遺物は主に弥生時代中期の土器が出土した。その他、勾玉が1点、複数の黒曜石片も出土している。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①甲府城下町遺跡(こうふじょうかまちいせき) ②甲府市丸の内3丁目110番③近世④令和4年2月3日～令和4年2月18日⑤泉英樹・藤巻浩太郎(昭和測量株式会社) ⑥昭和測量株式会社⑦20㎡⑧集合住宅建設に伴う発掘調査。調査地は甲府城下町遺跡の南西部に位置する。江戸時代は二の堀の外側の武家屋敷地で、百石町に該当する場所である。昭和16年の『商都甲府市家屋図』では第十銀行の倉庫群が建ち並んでいる。現地盤下1.5mから埋桶など、江戸時代とみられる遺構・遺物を確認した。⑨昭和測量株式会社



①史跡甲府城跡 愛宕山石切場跡（しせきこうふじょうあと あたごやまいしきりばあと）②甲府市愛宕町85-2 ③近世・近代④令和3年9月13日～10月4日⑤佐賀桃子・高左右裕⑥山梨県埋蔵文化財センター⑦約20㎡⑧史跡の内容把握のための試掘調査。史跡西側の平地に調査区を設定し、安山岩の割り材や自然石を多量に含む層を検出した。この層の帰属年代は不明だが、石切場として利用されていた頃に人為的に形成された可能性がある。また、地山と考えられるにぶい黄褐色シルト層において、溝1条とそれに重複するピット1基を検出した。1号ピットでは和釘が1点出土したものの、性格は不明である。史跡西側の平地は、石材の丁場及び割り材の廃棄場として利用した可能性が考えられる。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①史跡甲府城跡（しせきこうふじょうあと）堀地区（ほりちく）②甲府市丸の内一丁目地内③近世・近代④令和3年12月8日～令和3年12月27日⑤北澤宏明・佐賀桃子⑥山梨県埋蔵文化財センター⑦約84㎡⑧史跡甲府城跡（舞鶴城公園）の整備に伴い、石垣の規模や遺存状況等を確認するために調査を実施した。これまで内堀西面の石垣と接続する腰石垣の一部が確認できている。今年度も継続して調査を実施しており、内堀の石垣と腰石垣が確認できた。特に腰石垣は、長さ約18m、幅約2mの規模であることがわかった。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①深町遺跡・甲府城下町遺跡（ふかまちいせき・こうふじょうかまちいせき）②甲府市城東二丁目地内③近世・近代④令和3年6月15日～7月9日、令和3年11月1日～令和4年2月25日⑤上野桜・小池準一⑥山梨県埋蔵文化財センター⑦約1,160㎡⑧調査地点は、甲府城下町の南東端、濁川と三の堀が合流する場所にある。三の堀は、甲府城と同時に建設され、甲府城下町を外敵から守る施設であり、その内側は商人や町人が住む甲斐国経済の中心地でした。発掘調査では、地中から木造の構造物を発見し、杭や石垣によって濁川に繋がる可能性から、濁川の舟運に関する船着き場（河岸）や舟を造る場所などの仮説を立てています。舟運は全国で江戸時代から昭和時代に発達した輸送手段であり、今回の遺構は甲府城下町で新発見になるかもしれません。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

## 都留市

①正観寺遺跡（しょうかんじいせき）②山梨県都留市川棚日影山576番地ほか③縄文④令和3年8月24日、25日⑤奈良泰史⑥都留市教育委員会⑦約8,332㎡⑧川棚地区圃場整備事業に伴い試掘調査を実施した。調査地は地表面にまで湧水が染み出すような湿地

帯に立地している。周辺には縄文時代の包蔵地である正観寺遺跡や戦国期の山城である勝山城跡があり、勝山城跡の関連施設の有無や川棚地区の歴史的成り立ちを考察する上で重要なエリアである。今回、A～D調査区を設け調査したところ、B1試掘坑で現地表から-120cmのレベルで南北方向に直線的に打ち込まれた杭の列が検出された。これは、隣地の個人住宅敷地の境界付近にあるため、時期は不明だが地盤補強のために打ち込まれたものと推定される。⑨山梨県都留市上谷1-5-1 都留市教育委員会生涯学習課文化振興担当 0554-45-8008

①宮脇遺跡（みやわきいせき）②山梨県都留市小形山字宮地1516番地ほか③縄文、平安④令和3年7月14日⑤奈良泰史⑥都留市教育委員会⑦約7.5㎡⑧鉄塔建替工事に伴い調査を実施した。宮脇遺跡は昭和54年に中央自動車道富士吉田線四車線化工事に伴う発掘調査が実施され、平安時代の土坑や溝状遺構が検出されている。今回の調査地は高川山から東側に張り出す尾根の北面緩斜面に位置しており、鉄塔建設用支線止め建設箇所8カ所の内、4ヶ所に試掘坑を設置し調査に当たった。調査の結果、No.3試掘坑から削器状の礫が出土したが、遺構に伴うものではなく、他の試掘坑からは遺構・遺物は認められなかった。⑨山梨県都留市上谷1-5-1 都留市教育委員会生涯学習課文化振興担当 0554-45-8008

①桃園遺跡（ももぞのいせき）②都留市田野倉字神出259-1ほか③縄文④令和3年7月6日～11月30日⑤奈良泰史⑥都留市教育委員会⑦約336㎡⑧複合商業施設開発事業に伴い発掘調査を実施した。桃園遺跡は昭和43年農道拡幅工事の際に採取された多量の土器片により縄文時代から歴史時代にわたる集落址が想定される地域である。対象地をA～C地区に分けて調査した結果、A地区からは縄文時代の住居跡や集石遺構、歴史時代の土坑や溝状遺構が検出された。B地区からは縄文時代の住居址跡が検出され、その中から小型の有孔鏝付土器が出土した。C地区からは縄文時代の住居跡や歴史時代の土坑が検出された。今回の調査により従来の想定通り集落が継続して存在したことが明らかとなった。⑨山梨県都留市上谷1-5-1 都留市教育委員会生涯学習課文化振興担当 0554-45-8008

①美通遺跡（みとおしいせき）②都留市井倉地内③縄文時代、弥生時代、平安時代、中世④令和3年6月1日～9月30日⑤久保田健太郎・佐藤孝志⑥山梨県埋蔵文化財センター⑦約2,000㎡⑧朝日川河川改修工事に伴う発掘調査。縄文時代の集石（単体のものと、集積群となるもの）、弥生時代前期の壺1個体が出土した土坑、平安時代の所産と推定した直径1mの円形土坑、中世の所産と推定した横長の土坑を発見した。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

## 山梨市

①京塚遺跡・上野原遺跡②山梨市牧丘町北原地内③縄文時代・近世④令和3年9月3日～12月27日⑤宮澤公雄⑥公益財団法人山梨文化財研究所⑦6, 120㎡⑧京塚遺跡(A区) 縄文時代後期と思われる土坑15基、ピット9基を確認。土坑内より出土した土器には、北陸の土器である三十稲葉式土器もみられる。その他、風倒木痕9基も調査を実施。京塚遺跡(B区) 縄文時代前期の関山式の竪穴住居1軒、土坑(陥し穴含む)6基、ピット58基、焼土遺構1基を確認。竪穴住居内では石器製作を行っており、黒曜石片が多数出土。上野原遺跡 神明社跡地の石垣、参道、本殿を囲む区画石積みなどを確認。⑨055-263-6441

## 韮崎市

①宿尻遺跡(しゅくじりいせき)②韮崎市穴山町地内③縄文④令和3年4月21日～令和3年7月19日⑤半澤直史・関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約330㎡⑧個人住宅建設に伴う発掘調査。縄文時代中期の遺構・遺物が多量に出土した。出土遺物は土器が多く占めていて、調査中に同一の土器が集中的に確認された遺構もあった。遺構は主にピット・土坑がほとんどであった。その中で特徴的遺構として、落とし穴跡を検出した。また縄文時代中期より上の層から、調査区を南北に横断するような溝状遺構を検出した。時代を示す遺物が出土していないため、遺構の年代は不明である。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①宮ノ前遺跡(みやのまえいせき)②韮崎市藤井町地内③縄文・弥生④令和3年5月6日～令和3年8月16日⑤渋谷賢太郎・関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約210㎡⑧工場建設に伴う発掘調査。造成に伴い擁壁を設置する部分等を調査。縄文時代中期中葉～後葉の住居跡・土器埋設遺構・配石遺構・土坑・ピット及び弥生時代後期の住居跡等を検出。狭小な範囲の調査であることから住居跡の具体的範囲の特定には至らないものの炉跡等を多数検出。土器及び石器が多数出土。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①下横屋遺跡(しもよこやいせき)②韮崎市藤井町地内③奈良・平安④令和3年9月10日～令和3年10月13日⑤半澤直史・関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約280㎡⑧宅地造成に伴う発掘調査。河川流路と思われる溝跡を4条確認した。調査区内に奈良・平安時代と思われる土器が数点出土した。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①上横屋遺跡(かみよこやいせき)②韮崎市藤井町地内③奈良・平安④令和3年10月11日～令和3年11月4日⑤半澤直史・関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約430㎡⑧宅地造成に伴う発掘調査。溝状遺構2条を検出した。内1条は幅が広大な大溝であり、流路

の可能性が考えられる。調査区からは、奈良・平安時代の土器が出土した。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①宮ノ下遺跡(みやのしたいせき)②韮崎市穂坂町地内③縄文④令和3年8月3日～令和3年9月30日⑤渋谷賢太郎・関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約15㎡⑧県営畑地帯地域総合整備事業に伴う発掘調査。道路拡幅部分のみ発掘調査を実施。縄文時代中期の住居跡1軒、溝跡、土坑等を検出。縄文時代中期中葉～後葉の土器及び石器が多数出土。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①榎田遺跡(えのきだいせき)②韮崎市藤井町地内③縄文④令和3年10月29日～令和3年12月17日⑤半澤直史・関間俊明・渋谷賢太郎⑥韮崎市教育委員会⑦約100㎡⑧個人住宅建設に伴う発掘調査。擁壁設置部分を調査。縄文時代中期～後期の土器・石器、石棒2点等を検出した。また調査区全体に礫が出土、敷石住居の一部を確認した。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①新府城跡(しんぷじょうあと)②韮崎市中田町地内③戦国時代④令和3年10月27日～令和4年3月31日(予定)⑤関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約150㎡⑧天正9年に武田勝頼が築城、その後徳川家康が陣城として利用した城。2001年度の試掘調査で確認されていた石築地の実態を解明し、本丸内の主殿に関わる知見をえることなどを目的とした調査である。石築地の延長部分が確認されるとともに、石築地の途中の虎口と考えられる空間の存在を確認している。また、勝頼段階ととらえている整地面上に堆積する土壌内から炭化したコメ・ソバ・アワの種子の存在を確認している。また、直径1メートルの範囲で鉄製品(釘・種類について未特定のもの)の集中するところがある。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①御座田遺跡(みさだいせき)②韮崎市龍岡町地内③平安時代・中世・近世・近代④令和3年10月1日～令和4年3月31日(予定)⑤渋谷賢太郎・関間俊明・半澤直史・平野修・望月秀和⑥韮崎市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所⑦合計約10,000㎡(A地点:約1,000㎡、B地点:約3,000㎡、C地点:約6,000㎡)⑧圃場整備に伴う発掘調査。圃場整備第3工区内を3地点に分割して調査を実施。A地点:堤防地点、B地点:道路新設地点、C地点:道路新設地点としている。⑨韮崎市教育委員会0551-22-1111

①御座田遺跡A地点(古宮二番堤地点)[みさだいせき えーちてん(ふるみやにばんつつみちてん)]②韮崎市龍岡町地内③近代④令和3年10月1日～令和4年3月31日(予定)⑤望月秀和⑥公益財団法人山梨文化財研究所⑦約1,000㎡⑧圃場整備に伴う発



掘調査。古宮二番堤は約 108° 東方向に延びる、全長 122m を測る釜無川右岸の堤防跡。川表側のみ石積みがあり、根固め施設はない。現行堤防との連結部にあたる南端部では、川表側に小段が構築されていた。⑨公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

①御座田遺跡 B 地点（道路新設地点）[みさだいせきびーちてん（どうろしんせつちてん）] ②韮崎市龍岡町地内③古代～中世④令和 3 年 10 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日（予定）⑤渋谷賢太郎・閨間俊明・半澤直史⑥韮崎市教育委員会⑦約 3,000㎡⑧圃場整備に伴う発掘調査。新設される道路部分について調査を実施。度重なる水害を受けて重層的に水田跡・畠跡等が確認されている。残存状況が良好な地点では、畦畔・溝・取水口・排水口・足跡等が洪水砂にパックされた状態で確認されている。一部では水田面以下からピット等の遺構とともに灰釉陶器を検出。各遺構の具体的時期の特定には至っていない。⑨韮崎市教育委員会 0551-22-1111

①御座田遺跡 C 地点（道路新設地点）[みさだいせきしーちてん（ほじょうおよびどうろしんせつちてん）] ②韮崎市龍岡町地内③古代～中世④令和 3 年 10 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日（予定）⑤平野修・望月秀和⑥公益財団法人山梨文化財研究所⑦約 2,700㎡⑧圃場整備に伴う発掘調査。新設される道路部分について調査を実施。度重なる水害を受けて重層的に水田跡・畠跡等が確認されている。古代～中世の村周辺の生産域と推定される。残存状況が良好な地点では、畦畔・溝・取水口・排水口・足跡等が洪水砂にパックされた状態で確認されている。水田跡・畠跡より下の砂礫層の一部からは、摩耗した須恵器片が出土している。以前の調査で西側の段丘崖面で確認されている須恵器窯に関わる流れ込みと判断されるが、地形変遷と土地利用の変遷の両側面から検討を実施している。⑨公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

①山影遺跡（やまかげいせき）②韮崎市藤井町南下條地内③縄文④令和 4 年 1 月 17 日～1 月 26 日⑤正木季洋・高野玄明⑥山梨県埋蔵文化財センター⑦約 16㎡⑧調査地は七里岩東側の片山裾から東にかけて緩やかに傾斜した微高地に立地している。今回の調査は電線共同溝工事に伴う調査であり、国道 141 号の歩道内において発掘調査を行った。調査の結果、遺構は確認されなかったが、縄文時代から古墳時代までの土器・石器が多数確認されていることから、近接地に集落等の遺構が存在していることが推測される。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

## 南アルプス市

①柵形堤防（ますがたていぼう）後田堰取水口堤防跡  
②南アルプス市有野 3346 番 3 ③近世・近代④令和 3 年 10 月 14 日～令和 4 年 3 月終了予定⑤斎藤秀樹・

後藤健一郎・小澤英幸⑥南アルプス市教育委員会⑦ 80㎡⑧国指定史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）の整備に伴う柵形堤防の範囲確認調査を実施した。柵形堤防は徳島堰から六科地区へ分水する門を御勅使川から守る堤防である。本年度は、南堤および北堤の川面側および見張り小屋が設置されていたといわれる北堤馬踏の調査を行った。調査の結果、南堤では木工沈床が検出され、これまで発見された遺構の構造がさらに明確となった。調査では史跡整備基本計画における基本方針である市民参加の推進に基づき、市民や市内外の小学生が発掘調査に参加する機会を設け、調査の段階から市民とともに作る史跡整備を実施した。⑨南アルプス市教育委員会文化財課 055-282-7269

①前御勅使川堤防址群（まえみだいがわていぼうしぐん）②南アルプス市有野 2336-1 ほか③近世、近代④令和 3 年 10 月 11 日～令和 3 年 11 月 19 日⑤後藤健一郎・斎藤秀樹・小澤英幸⑥南アルプス市教育委員会⑦ 177.97㎡⑧本遺跡は御勅使川の旧流路である前御勅使川の堤防遺跡である。周辺には前御勅使川堤防址群の中でも、扇状地上の耕地や村落を水害から守っていた石積出や六科将棋頭などが存在している。本調査は主要地方道道路事業に伴い、前御勅使川右岸を守る堤防跡 2 カ所の調査を実施した。第 I 区では平成 25 年度に調査された前御勅使川堤防址群（御勅使川沿岸地区第 4 区ほ場整備地点）で検出した堤防遺跡と、不連続に続く堤体を検出した。第 II 区では位置的に前御勅使川右岸の堤防であり、明治 31 年に前御勅使川が閉じられるまで使われていたと考えられる堤体を検出した。両堤防とも堤体は砂礫堤であり、数回に亘って拡張・拡大を行っていた状況が明らかとなった。⑨南アルプス市教育委員会文化財課 055-282-7269

①野牛島・畑返遺跡（やごしま・はたかえしいせき）  
②南アルプス市野牛島 3303 番ほか③平安時代④令和 3 年 10 月 20 日～令和 4 年 2 月 8 日⑤小澤英幸・保阪太一⑥南アルプス市教育委員会⑦ 739㎡⑧本遺跡は御勅使川と前御勅使川に挟まれた御勅使川扇状地の扇央部に立地し、周辺には須恵器生産に関わったとみられる野牛島・西ノ久保遺跡や、ウマやウシの骨が出土し注目される平安時代の大規模集落である百々・上八田遺跡が立地するなど奈良時代から平安時代の遺跡が密に存在する一角に位置している。本遺跡としては初の調査となり、圃場整備に伴い実施している。調査では堅穴建物址 5 軒、炭焼窯 1 基、溝 3 条、土坑多数が検出された。堅穴建物址のカマド袖石に花崗岩が使用されている点や多くの須恵器が出土するなど、韮崎市御座田遺跡や、野牛島・西ノ久保遺跡との関連が伺われる。⑨南アルプス市教育委員会文化財課 055-282-7269

## 北杜市

①一道下遺跡（いちみちしたいせき）②北杜市須玉町

大蔵 577-1 他③縄文時代、奈良～平安時代④令和 3 年 4 月 12 日～令和 4 年 2 月 28 日（予定）⑤生山優実⑥北杜市教育委員会⑦約 15,000㎡⑧遺跡は塩川と須玉川に挟まれた河岸段丘上に位置する。圃場整備事業に伴い令和 3 年 1 月より本調査を実施し、奈良～平安時代の竪穴建物跡約 130 軒、大形の柱穴を持つ掘立柱建物跡、柵列などが発見されている。遺構からは土師器・須恵器のほか、焼印や円面硯、布目瓦、高盤、分銅などの特殊な遺物が多く出土しており、役所や寺院などの重要な役割を持った拠点集落の一つと考えられる。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①中原遺跡（なかはらいせき）②北杜市小淵沢町 3075-2 ③縄文時代④令和 3 年 4 月 23 日～令和 3 年 4 月 30 日⑤渡邊泰彦・雨宮正樹⑥北杜市教育委員会⑦ 441㎡⑧調査区は八ヶ岳から延びる南北に細長い尾根上に位置する。山林から宅地への開発計画に伴い試掘調査を実施したところ、縄文時代中期後葉の土坑 1 基のほか、土坑状プラン 40 程度を確認した。住居跡は確認できなかったが、12 本の試掘トレンチ全てで縄文時代の遺物が出土した。南側隣接地の試掘では住居跡は検出されなかったため、北側に集落跡があると推測される。遺跡の取り扱いについては協議中である。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①中山工区内遺跡（なかやまこうくないせき）②北杜市武川町三吹 3512 他③縄文時代、平安時代～中世④令和 3 年 5 月 18 日～令和 4 年 3 月 28 日⑤渡邊泰彦・雨宮正樹⑥北杜市教育委員会⑦ 21,000㎡⑧平成 30 年度から継続する圃場整備事業に伴う発掘調査。調査対象地は中山とよばれる小山の山腹に広がっており、8 つの遺跡を含む。今年度は坂上・西久保 B、山田 C の 3 遺跡で平安時代から中世の竪穴住居跡 39、炭窯 1、掘立柱建物跡 21、地下式土坑 3 などが確認された。今年度調査区からも平安時代の竪穴住居と掘立柱建物で構成された小グループを複数検出しており、集落の構造を考えるうえで興味深い。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①小屋敷遺跡（おやしきいせき）②北杜市長坂町大八田 3838-1 他③中世④令和 3 年 6 月 25 日～令和 3 年 6 月 29 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 108㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の南北に細長い微高地上に位置する。農地から宅地への転換が計画されたことから試掘調査を実施し、土坑状プラン約 20、ピットプラン約 70 を確認した。かわらけ、内耳土器、すり鉢、陶器片なども出土したことから、中世の遺跡と判断した。ピットは柱穴と考えられ、調査区内には建物が密集していると推測される。中世の大八田荘との関連が注目される。遺跡の取り扱いについては協議中である。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①原町農業高校前遺跡（はらまちのうぎょうこうこう

まえいせき）②北杜市長坂町塚川 174-1 ③縄文時代④令和 3 年 7 月 14 日～令和 3 年 7 月 16 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 138㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根の南端に位置し、北から南へ急傾斜している。駐車場造成に伴い、試掘調査を行った。過去に平坦な北側隣接地で縄文時代中期の集落跡を調査しており、そこに近い調査区北東側が最も遺物の出土が多く、縄文時代中期の竪穴住居跡 1 軒と住居跡と疑われる暗褐色土プラン 1 基を確認した。集落の南端を調査したと考えられる。協議の結果、遺構は現地保存されることとなった。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①腰巻遺跡（こしまきいせき）②北杜市須玉町藤田 761 他③縄文時代④令和 3 年 7 月 21 日～令和 3 年 8 月 6 日⑤雨宮正樹・生山優実⑥北杜市教育委員会⑦ 51㎡⑧遺跡は塩川の河岸段丘上に立地する。今回の調査区は、平成 6・8・15 年に現在の北杜市立塩川病院及び付属施設建設に伴う発掘調査で古墳時代、奈良～平安時代の竪穴住居跡などが発見された調査区の南側にあたる。個人住宅建設に伴う試掘調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡 2 棟、土坑 6 基を確認した。遺構確認面以下に工事による掘削が及ばないと判断したため、遺構確認のみを行った。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①清水遺跡（しみずいせき）②北杜市大泉町西井出 690-1・690-4 ③近世か④令和 3 年 8 月 24 日～令和 3 年 8 月 27 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 71㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の緩傾斜面上の微高地に位置する。開発に伴い試掘調査を行ったところ、土坑 6 基とピット 2 基を確認した。いずれの土坑も直径 1 m ほどで断面形は寸胴である。このうち重複する 2 基の土坑は特徴的で、底面に粘土を均一に貼り、外周には周溝のような浅い溝が一周する。壁の内側にも 3cm ほどの厚さで粘土が貼ってあり、中位ほどの高さに桶のタガのような痕跡が水平に一周する。遺物はないが、近世以降のものとして推測される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①竹原遺跡（たけはらいせき）②北杜市小淵沢町 3757 他③平安時代④令和 3 年 9 月 27 日～令和 3 年 11 月 8 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 1,225㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の北東から南西に延びる細長い尾根の東端に位置する。過去に、南へ 150 m ほど離れた尾根下の低地で平安時代の集落跡が調査されている。桑園での桑の伐根が計画されたことから試掘調査を行ったところ、平安時代の竪穴住居跡 4 軒と溝 1 条を確認した。住居跡は 2 軒ずつのまとまりが約 100 m 離れて見つかったことから、この間にも遺構が存在する可能性はある。今後、発掘調査を実施する予定である。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019



①神の前C遺跡（かみのまえしーいせき）②北杜市高根町小池 620 ③縄文時代・古墳時代④令和 3 年 10 月 19 日～令和 3 年 10 月 25 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 63㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根上に位置する。この周辺では圃場整備に伴う発掘調査により、縄文・古墳・平安時代の集落跡が展開していたことが判明している。個人住宅建設により試掘を行ったところ、縄文時代中期と古墳時代後期の竪穴住居跡を各 1 軒ずつ確認した。両遺構とも調査区外に延びるため完掘はできなかったが、縄文住居跡からは多量の土器が出土した。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①御所遺跡（ごしょいせき）②北杜市高根町五町田 795-2 ③平安時代、中世～近世④令和 3 年 11 月 26 日～令和 3 年 12 月 8 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 136㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根上に位置する。個人住宅建設により試掘調査を行ったところ、平安時代の住居跡 4 軒、中世～近世と思われる配石土坑 4 基などを確認した。住宅の基礎掘削深度が浅いため、遺構は現地保存することとなったが、その内容の確認のため部分的な調査を行った。配石土坑は長軸 180cm、短軸 100cmほどの長円形で、壁面に石を立て並べている。遺物はないが平安住居を切るため、中～近世の墓と推測した。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

①柳坪北遺跡（やなぎつぼきたいせき）②北杜市長坂町大八田 637-1 他③縄文・古墳・平安時代④令和 4 年 1 月 8 日～令和 4 年 1 月 18 日⑤雨宮正樹・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 298㎡⑧調査区は八ヶ岳南麓の緩傾斜面上の微高地に位置する。北側隣接地では、縄文時代中期の集落跡、土器捨て場が調査されている。太陽光発電施設が計画されたことから試掘調査を行ったところ、縄文時代の住居跡 1、古墳時代の住居跡 2、平安時代の住居跡 2 を確認した。調査区は東西に長く、現況は平坦に見えるが、掘ってみると中央が窪む地形で、両端の高い場所に遺構が分布していることがわかった。遺跡の取り扱いについて協議中である。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-25-2019

### 甲斐市

①松ノ尾（まつのお）遺跡②甲斐市大下条 1073- 1 ③縄文・古墳・平安・中世④令和 4 年 1 月 6 日⑤長谷川哲也⑥甲斐市教育委員会⑦ 8㎡⑧ 93 条届出前の試掘調査依頼に基づき調査を行った。2 か所にテストピットを設け、遺構・遺物の残存状況を確認したところ、地表下約 50～70cm付近で遺物包含層、時期不明の溝状遺構を確認した。出土遺物は包含層から各時代の遺物が出土した。⑨甲斐市教育委員会生涯学習文化課 055-278-1697

### 笛吹市

①甲斐国分寺跡（かいこくぶんじあと）②笛吹市一宮町国分地内③奈良時代④令和 3 年 10 月 18 日～令和 4 年 1 月 5 日⑤江草俊作・伊藤修二⑥笛吹市教育委員会⑦ 200㎡⑧国指定史跡甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡の整備活用に向けて、甲斐国分寺跡の中心伽藍地域の性格等を把握することを目的として発掘調査を実施した。今年度は、中門跡及び回廊跡・塔跡・金堂跡南部・中心伽藍北部の 4 箇所にトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、塔跡において地固めと考えられる版築基壇（土を強く突き固めた基礎）の一部や、金堂跡南部において石列が発見されるなど新しい発見があった。次年度は、中門跡の位置を明確にすることを目的として調査を行う予定である。⑨笛吹市教育委員会 055-261-3342

①毘沙門遺跡（びしゃもんいせき）②笛吹市境川町石橋地内③古墳時代、平安時代④令和 3 年 10 月 6 日～令和 4 年 2 月 28 日⑤久保田健太郎・佐藤孝志⑥山梨県埋蔵文化財センター⑦約 1,800㎡⑧中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査。6 世紀から 7 世紀にかけての古墳時代の集落と、10 世紀の平安時代の集落を発見した。古墳時代の遺構は竪穴建物 7 軒、平安時代の遺構は竪穴建物 2 軒と土坑 1 基である。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

### 甲州市

①千手院前遺跡（せんじゅいんまえいせき）②甲州市塩山上塩後字千手院前③縄文時代④令和 3 年 11 月 4 日～12 月 3 日⑤入江俊行⑥甲州市教育委員会⑦ 72.8㎡⑧個人住宅建設に伴う発掘調査。令和 2 年度、宅地造成時に調査が行われた千手院前遺跡の一角にあたる。遺構は竪穴状遺構 1、土坑 1、ピット 32、流路 1 が検出された。包含層および各遺構から縄文土器片、石器片が出土しており、流路から土偶頭部が 1 点発見された。縄文前期・中期。⑨甲州市教育委員会文化財課電話 0553-32-5076

### 中央市

①二又第 1 遺跡（ふたまただいいちいせき）②山梨県中央市成島地内 ③中世後半 ④令和 3 年 1 月 22 日～6 月 30 日 ⑤御山亮濟、内田祥一、小高鉄平、桐部夏帆 ⑥山梨県埋蔵文化財センター調査研究課 ⑦約 3,000㎡ ⑧二又第 1 遺跡は中央市成島にある 15～16 世紀頃の遺跡である。発掘調査では、数多くの柱穴や土坑、溝、井戸などともに、埋葬された人の骨が残るお墓が見つかった。木棺に納められている状況や土師質の茶釜、香炉、石製五輪塔が出土することから寺院址の可能性が考えられる。そのほか、出土した遺物には、土師質の皿、播鉢、木製の下駄や箸、漆碗などの生活用品が数多く見つかった。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①二又第 2 遺跡（A 区）（ふたまただいにいせき（えー

く)) ②山梨県中央市成島地内 ③中世後半～近代 ④令和3年2月1日～4月9日 ⑤御山亮済、小高鉄平、桐部夏帆、高左右裕 ⑥山梨県埋蔵文化財センター調査研究課 ⑦約2,000㎡ ⑧二又第2遺跡では、発掘調査に先立つ試掘調査において、水田と思われる土層堆積を広く確認している。発掘調査においては、中世～近世の土器、陶磁器を含む遺物包含層を調査区全域において検出したものの、遺構は見つからなかった。堆積土層の観察から、きわめて緩やかな水成堆積であり、長期間泥状の土が堆積したと思われる状況であったため、二又第1遺跡との位置関係を鑑み、遺物が散布しているものと判断される。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①二又第2遺跡(B・C・D区)(ふたまただいにいせき(びー・しー・でいーく)) ②山梨県中央市成島地内 ③中世後半～近現代 ④令和3年7月9日～令和4年3月31日(予定) ⑤御山亮済、小高鉄平、桐部夏帆 ⑥山梨県埋蔵文化財センター調査研究課 ⑦約17,000㎡ ⑧二又第2遺跡(B・C・D区)では近世～近代の水田面を検出した。遺構面までが浅く、現代の耕作により畦畔等が削平されている。発掘調査では、当該期の水田水路の下層部が検出した。また、C区とD区の間にあるコンクリート水路の前身の堰を検出している。昭和前半代に機能していたものであり、日本住血吸虫の根絶のためにコンクリート製水路が整備された変遷をうかがえた。水田面直下の黒褐色土層からは、中世後半の遺物が出土するが当該期の人の生活痕跡を示す明確な遺構は検出しなかった。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①小井川遺跡(こいかわいせき) ②中央市布施地内 ③中世～近世(一部古墳) ④令和3年11月8日～令和4年3月8日 ⑤数野優・内田祥一 ⑥山梨県埋蔵文化財センター ⑦約1,545㎡ ⑧本遺跡は甲府盆地南部の氾濫原地域にある遺跡である。布施地区は古代から「布施荘」として開発がなされ、近世以降は河内路や市川道が交差する交通の要所であった。A区(西側)は幅7mの溝から中世～近世にかけての素焼きの土器や陶磁器、漆椀などの木製品が出土しており、その状況から小井川遺跡の東端部であると考えられる。B区(東側)は古墳時代終末期の坏(つき)や甕(かめ)などが出土しており、近隣にある上三條河原遺跡(同時代)の西端部であると考えられる。⑨山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①大鳥居宇山平遺跡(おおとりいうやまだいらいせき) ②中央市大鳥居 ③古墳時代 ④令和3年12月20日～令和4年3月31日 ⑤中央市教育委員会生涯教育課 今村直樹 ⑥中央市教育委員会 ⑦620㎡ ⑧圃場整備に伴う発掘調査。第1調査地点では、直径約18mの円墳周溝が検出された。周溝は、残りの良好な部分で幅約120cm、深さ約80cm、遺物はほとんど含まれないが、一部土師器がまとまって出土する範囲がある。第2調査地点では、円墳周溝になる可能性のある溝が検出された。溝中には礫が多く含まれているが攪乱の可能性もある。いずれも主体部は残っていない。⑨中央市教育委員会 055-274-8522

## 富士河口湖町

①井坪遺跡(いつぼいせき) ②南都留郡富士河口湖町河口字井坪 ③古墳・平安時代・中近世 ④令和3年4月30日・5月6日 ⑤杉本悠樹・村石眞澄 ⑥富士河口湖町教育委員会 ⑦40㎡ ⑧井坪遺跡は河口湖北東岸の山ノ神川が形成した扇状地上に位置し、国道137号河口2期バイパスの両側に広がる遺跡である。大型商業施設(店舗)の建設に先立ち試掘確認調査を実施。3基のトレンチを設定し重機で掘削後に人力で精査を行なったが、地表面以下2m以上の厚さに及ぶ盛土が施されていることが判明した。設計上の基礎工事の掘削深度と対照し、当該開発行為において埋蔵文化財への影響はないと判断された。⑨富士河口湖町教育委員会生涯学習課 0555-72-6053

①船津浜中村遺跡近接地(ふなつはまなかむらいせき・きんせつち) ②南都留郡富士河口湖町船津字中村 ③縄文時代前・中期 ④令和3年8月18日～9月15日 ⑤杉本悠樹・村石眞澄 ⑥富士河口湖町教育委員会・山梨県富士山科学研究所・山梨県立富士山世界遺産センター ⑦4㎡ ⑧河口湖の南東岸の船津溶岩末端に位置する船津浜中村遺跡では、溶岩流の直下から縄文時代の前・中期の土器が発見された事例があり、溶岩末端の露頭付近で店舗建設の予定があることから、遺跡の範囲外ではあるものの学術調査を兼ねて試掘調査を実施した。調査着手前に溶岩の下底部が露出していると認識されたが掘削した結果、溶岩流のクリンカー(表面ががさがさした溶岩塊)が集合した空洞部であることが判明した。深く掘削を進めたが溶岩下底部の岩盤にあたり、縄文時代の包含層があるとされる船津溶岩流の直下にまで至らなかった。⑨富士河口湖町教育委員会生涯学習課 0555-72-6053

## 2021(令和3)年度 第2回 遺跡調査発表会要旨

発行日 2022年3月12日  
発行所 山梨県埋蔵文化財センター TEL 055-266-3016  
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923  
<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>  
山梨県考古学協会 TEL 055-263-6441  
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566  
帝京大学文化財研究所内  
やまなしのこうこがく <https://sankoukyou1979.wordpress.com/>  
印刷所 峡南堂印刷所 TEL 055-235-2528